



左から阿比留、市長、扇、石井、大石の各氏

7月25日、各分野の市民の皆さんと市長が、対馬市の抱える問題や将来に向けたまちづくりについて対談する「市長と語る」を実施しました。内容（抜粋）は次のとおりです。

「司会」今回は「対馬経済の活性化と市民の役割」というテーマで、市民の皆さんにお話をお聞きしたいと思いません。まずは大石さんからどうぞ。

「大石」対馬は、行政圏は長崎、経済圏は福岡と特殊な地域。その特徴を活かせば活性化ができるのではないかと思う。また対馬の原点は漁業、漁業が元気になればその他の産業も公共事業も付いて来る。

「司会」合併してここはこうなったと具体的にありますか。

「大石」公共料金が前より高くなったものがあると聞くが、合併して1年くらいで成果は表れないと思う。人間悪くなったことは言うが、良くなったことは言わないもの、だから10年、15年単位で考える必要があると思う。

「司会」石井さんはいかがですか。

「石井」私も同感です。私自身、自分の仕事に追い立てられて周りを見る余裕がなかったし、1年足らずで結論は出せない。今一番大事なのは、これからどう変わろうとするビジョンと情熱、努力が大切ではないかと思う。そうした中で結果は出てくると思う。1年半で芽が出てきたものは伸ばせばいいし、漁業はやはり対馬を支える産業だと思うので漁業振興が対馬の経済振興に有益だと思つ。

「司会」市民の意識の変化というのはどう感じていますか。

「石井」そこまで見ていないが、自分のことを言うと、林業に関しては間もなく林業公社造林の伐期に入る。この資源をどうにかしてお金にできるよう業界では取り組んでいる。

「司会」扇さんはどうでしょうか。

「扇」漁業ですからあまり行政に接する機会がないのですが、たまに役所に行く、やはり支所は寂しくなつたなと感じる。ただ大きく変わったとは思っていない。やむを得ず合併したとされているので、お二人が言うように市

になつたからといって効果はすぐに表れないと思う。

それと先ほどから基幹産業は漁業だと言われて少々プレッシャーを感じて頑張らねばと思つています。ただ、自分のことで手一杯で、全体として盛り上がりにつながっていないことが苦しいところ。自分としては漁業も企業として自助努力していく必要はあると思う。安易に行政などに頼らず努力すること、楽しんで仕事をしていく必要があると考えている。

「司会」扇さんは部長になって5年ということですが、楽しんで仕事をという取り組みはどうですか。

「扇」楽しく仕事をというのはいさつの中に入れる程度で、具体的には取り組んでいません。自分が取り組んできた漁協合併が頓挫したのが残念。やはりスケールメリットを考えると、

このままの漁協だと販売力がない。漁師は魚を獲ることに専念して販売まで手が回らない。販売は漁協や漁連に頼ることになるが、今のままではだめだと合併に取り組んできたのですが、もう少し時間が必要だなと思つています。

「司会」ひととおりの話をお聞きしましたが、次に現在の経済不況による対馬経済の影響についてお話をただければと思います。まずは扇さんどうぞ。

「扇」私の場合、魚類養殖をしていて販売のほとんどは輸出です。距離が近

いということではやはり韓国のほうに目を向けざるを得ない。

周りは魚の値段が安いことについては不況のせいになっているが、経済というのは動いているので、その変化に対応できていないのが原因だと思つ。パブルも終わり今は考える時間もある。今がチャンスの時ではないかと考えている。不況、不況と言うのは簡単だが、もう少し時代の流れに目を向ける余裕が必要だと思つ。

「司会」何か工夫とか努力している点はありませんか。

「扇」私は魚類養殖をやっているわけですが、養殖だけではだめで、定置網もやっている。獲つた魚を付加価値をつけるため養殖に回したり、お金にならない魚を餌にするなどその相乗効果を狙っている。今からの漁業はこのような複合化が必要だと思つ。

「司会」どうもありがとうございます。石井さんは林業の立場からはいかがですか。



加工材で事業を継続してきたと語る石井さん

「石井」20年前は自分のところの製材

は、ほとんど福岡に出していたが、だんだんと離島のハンドでコストがかかるといふようになり、木材価格の低迷もあり島外出荷をあきらめて、島内販売に切り替えた。これは家の建築自体は景気の影響もなく安定していたからで島内に需要があった。

ただ最近ではプレカットという島外で構造材などに加工する方式が流行りだして製品が出なくなつた。これでは事業も頭打ちになるので、10数年前にプレカットに無い「はがら材」や「化粧材」を加工して納めるようにした。この事で何とか事業も継続できている。

「司会」昨年、対馬の木の家を建てるといふことで大船越にモデルハウスを立てられたそうですが。

「石井」プレカット製品が悪いというわけではなく、このままだと地元材のシェアがなくなるとの危機感から、昨年グループを立ち上げてモデルハウスを建てました。対馬材でこういうふうに使えばきれいな家が建てられるという「地産地消」を目指す活動です。

「司会」評判はいかがですか。

「石井」プレカットが人気なのは価格の問題。ただ在来工法の物と比べると、やはり強度や耐久性が劣る。地元材で建てるといふことは、その土地の気候、自然に合ったもので耐久性に優れている。プレカットを使って10年、20年後に改修費を出すのか、値段は少し

高いが、地元材を使うかよく考えて選んでもらえばと思います。

「司会」対馬の89%が森林です。漁業もそうですが、林業も対馬の基幹産業のひとつだと思つのですが、これから一番伸ばしたい点は何ですか。

「石井」不況と輸入材で木材の相場が低くなつてきている。そんな相場の中で、いかに付加価値をつけて販売するかに取り組んでいます。

「司会」ありがとございます。お待ちたせしました大石さんどうぞ。



島外販売の展開を語る  
大石さん

「大石」扇さんが言うように対馬の人は商売が下手。獲つたり作つたりは上手だが、いくら獲つてきても売れなくては何にもならない。もっと売り手が必要だと思つ。そのために公社などを作つて島内外に販売を展開できればと考えている。

「司会」ひと通り皆さんのお話を聞かせていただきましたが、市長はどうお考えでしょうか。

「市長」よく拝聴させていただいたが、皆さんよく考えておられると思つ。と

どのつまりは人なのだろう。今のところは無の状態。だから何かをしなければならぬ。いつか効いてくる漢方薬の処方箋のようなものが必要なのだろう。それぞれの分野で日々考えていけばアイデアは出るもの。扇さんが言ったようにプラス志向でやっていかないと減入つてしまう。その考えを持つことで持たない人との差が生れてくるのだと思つ。

「司会」扇さんは先ほど楽しい漁業とお話されましたが、ご自身はいかがですか。



後継者問題を話す  
扇さん

「扇」これは後継者問題に通じるのですが、どんな場合でもこの問題は取り上げられて、出た結論は利益を上げること。儲かれば子どもたちも跡をとつてくれる。それと私的には楽しむこと。楽しんでいきいきと仕事をしていければこれはいい仕事かもしれないと思つ。これは自分子どもにも実験しているが、この前、保育所で将来何になりたいかの問いに、うちの子どもだけお父さんの仕事がしたいと言つた。やはり楽し

く輝いていけば、その波動が子どもに伝わるのではないかとと思つ。

それと一点大石さんに反論なのですが、ブランド化を目指すのか利益を目指すのか論議すべきだと思つ。ただ闇雲にブランド化を目指すだけでなく、利益が上がれば下請けでもいいと思つ。一般の常識にとらわれないで自分やってみることが大事だと思つ。

「大石」私が言いたかつたのは、生産者がいて、仲買、問屋がいてという方式の間を抜いて生産者が少しでも利益を増やせばよいと思つて話した。ブランド化と言つたことも、今、対馬のウニやサザエやしいたげが他の産地のものになつてきている。これを対馬産だといふことがわかつてもらうのが目的。



ブランド化について語る  
市長

「市長」今大事な論議なのですが、何のためのブランド化かといふことだと思つ。俗に言えば利益を上げるため、販売力を付けるためにブランド化を目指していると思つ。

「石井」ブランドを買うことだと思つ。安心・安全を買うことだと思つ。



「市長」認められたものがブランド。

ブランド力があるということは販売力があるということ。ブランドを作ろうと言っても認められなければブランドにならない。誰にも認められるものを創造することがブランド化だと思う。ただ、それを全国の皆さんがブランド化、ブランド化と言って特産品を販売したが、特産品でないものが特産品になった。つまり何処にでもあるものではなく希少性が受け入れられた。

「司会」ブランドといえば対馬の松について石井さんがですが。

「石井」対馬の松は、土佐松、木曾松、対州松と日本三大松のひとつ。ただ現在ブランドの対馬の松として市場に出せるものは少ない。既に伐つてしまっていて資源が乏しい状況。将来的には十分な資源はあるが今は早い。「司会」対馬の松を使って家具を作るなどの取り組みをされていたようですが。

「石井」対馬の松ということで福岡の業者に協力いただきました。

話を戻して申し訳ないのですが、扇さんはブランドに対してあまり良い意見をお持ちでないようですが、やっぱりブランドはあったほうがいいと思う。ただ、よいものを作って出せばそれがブランドになると勘違いもあり、一定の基準を超えたものをブランドとして選定できる機関が必要ではないか。

「扇」何もブランドを否定しているわけではなく、みんながやることを同じようにやるのではなく希少性が重要。

良いものがたくさんあれば価値は低い、誰もがブランド化、ブランド化と言っていることに対しての警鐘である。短絡的な考え方はやめた方がいい。

「市長」要は知名度だな。不特定多数に認知されることが営業もしやすいし、いかに多くの方に認めてもらえる品物を作るかが問題だと思う。いままでも経済も行政も国の庇護の下「護送船団方式」でやってきたが、これは今の時代には合わない。やはり今は個性化、価値のある地域差が必要である。

商品も個性的なものが売れていくのではないかと思う。ブランドにこだわらなければならないと思うが、ブランド化をしていくことは利益を上げることにつながるので大事なことだろう。

「司会」市長のお話を聞いて皆さんはブランド化についていかがでしょう。

「石井」やはり知名度が上がれば仕事はしやすいですね。

「大石」先ほど石井さんがおっしゃった対馬の松と福岡の企業との件は、対州松という知名度があったからやりやすかったのではないかとと思う。「司会」まだ松の伐期が早いとお話でしたが。

「石井」やはり今は何に使うかによるが銘木の資源が少ない。100年を超

える松もあるが、主流は戦後植えられたもの。なんでもかんでも特産品として出せばいいのだから、一定の基準を設けてブランド化すべきだと思う。

「市長」対馬の松のブランド化として福岡の家具メーカーと協力して家具を作ったが、資金がかかった割にはいまひとつ成果が見えてこない。

「扇」三大松といわれるが、全体量の差、ロットの差はありませんか。対馬の商品は全体的にロット不足、この時期にこの商品をどれだけ欲しいと言われてもロット不足で対応できない。ロット不足が最大の課題、これをどう打開するかにかかっている。

「市長」対馬はロット不足というデメリットがある。逆にロット不足にならない産地はスケールメリットでやる。

対馬はやはり韓国に目を向けるのが良いのだろう。運賃は安いし、ある程度のロットがあつてそれを継続して出していく必要があるが、定番商品とセットで販売していけばよいのではないかと。「扇」ロットが少ない希少価値で攻めていけばいいのではないかと。

「市長」だから物産開発を始めたとき、年中生産する物がなければ、少量多品目でやればよいと考えた。季節ごとに製品を作つて売つたが、やはりスケールメリットには勝てなかった。最初は希少価値でもはやされたが、同じようなものは全国で作りました。流通は

目まぐるしく変わっている。それに対応できるシステム、体制づくりが必要だろう。

「司会」ここでもう少し後継者問題のお話をいただきたいと思えます。



徐々に論議も白熱してきました。

「石井」個人的には娘ばかりで考えられないのですが、自分が親の敷いたレールで対馬に帰ってきて悔しい思いをした。子どもたちにはそうはさせたくない。ただ、対馬からの流出については親の責任が大きい。子どもには良い暮らしをさせたいと思うばかりに島外の学校にやるなど、郷土愛をなくすような育て方をしていると思う。

やはり扇さんの言うように、自分の仕事に誇りを持って楽しく輝いていれ

ば、子どもたちも仕事に興味が湧くし、郷土愛も芽生えてくるのではないかと。「市長」そのとおりだろう。やはり親の後姿を見てすごいなとか感動させることができれば、自然と郷土愛も芽生えてくるのだと思う。

「扇」やはり僕は戦後教育の欠点が、今の状況を生んだのではないかと思う。今の状況を変えるには教育を変えないとだめだと思う。

「市長」ナショナルリズムの教育という前に、愛国心や郷土愛、自分の身近にいる人を大事にする心を育てる必要があるのだろう。今は無関心、無感動の子どもが増えてきたのかもしれない。

「大石」昔は上の人も下の人も付き合って、いろいろなことを教わってきた。今は同年代の子どもたちとしか付き合わず、社会に出ても友達感覚でしか人と付き合えない。

「扇」後継者不足については、自分の子どもはさておき、新規参入があるくらい魅力ある産業にする必要がある。自分たちの努力不足である。それくらい高い目標を持って取り組むことが肝心だと思う。そのことが産業の活性化につながる。ただデメリットとして、

競争社会なので勝ち組と負け組が出てくる。全体を救えないということの理解が必要だろう。

「市長」後継者問題ではやはり所得が大きなウェイトを占めていると思う。

美津島では高浜や尾崎には後継者が多くいて、そんな漁家は水揚げが悪くても1千万を下らない。

「大石」すみません。その他ののですが、海のゴミ問題について、これをゴミと考えると、熱源の原料として有効利用できる宝の山だと思う。

「市長」負の部分プラスに出来るかというと思うが、ダイオキシンの問題やコストの問題などまだまだ研究する必要があるのだろう。

「司会」そろそろ時間もなくなってきました。最後言い足りなかったことをお話しただけだと思います。「扇」変な事をいいますが、北朝鮮は何れ崩壊すると思う。その時の難民対策としてマニュアルづくりが必要なのではないかと思う。

また、対馬を一つの国と考え、島内総生産の数値を出して、目標値を設定してみようか。そしてその目標達成には、いかに外貨(利益)を稼げる企業を作り上げるかが鍵だと思う。

「石井」対馬の宝はやはりこの自然だと思う。海の日などで海岸の清掃を行っているが、これを単発ではなく継続させてほしい。それが観光や漁業の活性化につながるのではないかと。市民こそ環境保全に取り組めればいいと思っている。

それと過疎の問題、経済を支えるのは人口だと思う。定住人口の増加策を

講じて欲しいと思います。「大石」お二人がおっしゃったので何もないのですが、いろんな方の知恵をお借りして頑張っていこうと考えています。「司会」それでは最後に市長どうぞ。「市長」皆さんの視点が変わると感じている。北朝鮮の件については、有事法制が整備され、危機管理についても整備していきたい。

世の中は、我々の想像以上に変わってきた。考え方を変えることが明日の対馬を支えるもの、お互いが情報を共有しあってそれぞれが明日に向かって胎動することを期待しております。

【出席者のプロフィール】  
石井弘康(49歳・美津島町洲藻) 製材業、南部木材生産業組合長  
扇 平(48歳・峰町狩尾) 水産業、対馬地区漁協青壮年部会長  
大石 一(52歳・上県町佐護東里) 商業、前佐護地区総区長  
松村良幸(63歳・対馬市長)  
司会 阿比留えり子(MYTアナウンサー)

なお、この対談を収録したビデオを各支所、公民館、出張所に準備しています。視聴希望の方は、各支所総務課にお問い合わせください。また、対馬市では、この対談を今年

度6回計画しています。市長と対談希望の方は、秘書課(53 6111)までお問い合わせください。

## 市長の動き

〔8月〕

2~4日 第47回自然公園大会

(佐世保)

5日 対馬海区漁業調整委員会

6日 厳原港まつり・対馬アヒラン祭

8~25日 人間ドック、検査入院

26~27日 県下市長会 (長崎)

27日 対馬ちゃんぐ音楽祭

30~31日 離島医療圏組合理事会 (長崎)

31日 行財政改革推進委員会最終答申 受領

